

## ロボット支援胸腔鏡下腫瘍肺悪性腫瘍（肺がん・転移性肺腫瘍）手術開始のお知らせ

肺がんを含む肺悪性腫瘍に対して従来は開胸手術を行っていました。この手術は確立された手術手技ですが、術後の創部痛や合併症の点から最近はより低侵襲である胸腔鏡手術が一般的となっています。

当院でも 2018 年には肺悪性腫瘍に対する手術 115 例中 112 例に対しては胸腔鏡手術を行っています。胸腔鏡手術ではカメラにより術野が拡大視されるため、正確な手術ができ、手術中の出血量や術後合併症が開胸手術よりも少なくなるとされます。一方、難度が高い手術を必要とする場合もあります。手術難度が高い原因のひとつに、手術器具が直線的で限られた動作しかできない、そのため術中の縫合操作が難しいことが挙げられます。

その点、手術支援ロボットは鉗子先端に関節がついているため、従来の胸腔鏡手術よりも複雑で繊細な手術手技をより容易に行えるという特徴があります。またカメラぶれの無い 3 次元画像、手振れ補正機能などにより、安全かつ侵襲（負担）の少ない手術が可能となります。日本でも 2012 年に前立腺がんの手術で健康保険が使えるようになってから急速にロボット導入施設が増え、当院でも前立腺がん、腎がんに対してはロボット支援手術が行われてきました。2018 年 4 月より肺悪性腫瘍（肺がん、転移性肺腫瘍等）に対する「胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 肺葉切除又は 1 肺葉を超えるもの（ロボット支援）」が保険診療として適用されることになりました。その他、縦隔腫瘍を含む多数の悪性腫瘍に対しても同時に保険診療可能となり、膀胱がん、胃がんに対してロボット支援手術は当院でも既に開始されています。

ただし保険収載にあたり術者要件と施設基準が定められています。術者要件は満たしていますが、ロボット支援胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除以上）を施設として通常の保険診療として行うまでに 10 例の経験を義務付けられました。当院はがん診療拠点病院でもあり、患者さんに優れた医療を早期に提供するために、早期に 10 例の手術をさせていただくことを目指しています。上記のように当院では胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術の技術、経験も十分ではありますが、患者さんに不利益がないように、最初の 10 例の当手術関連の費用を病院負担で行わせていただきます。（当手術関連以外の医療費や、給食費、差額ベッド代、病衣代などの費用は別途必要です。）

当然ですが、当手術の実施に当たってはガイドラインを遵守し安全を一番に行っていきます。当手術のメリットをご理解いただき、優れた手術を受けていただきますよう、よろしくお願い致します。

この手術について、お聞きになりたいことがありましたら、当院呼吸器外科:大政貢  
(連絡先:TEL 078-997-2200)がお答えしますので遠慮せずお申し出ください。



2019 年 1 月 23 日

神戸市立西神戸医療センター  
呼吸器外科部長 大政 貢  
院長代行 竹内康人